You, Unlimited

龍谷大学国際社会文化研究所シンポジウム

RYUKOKU UNIVERSITY

「公共性の危機」と人文・社会科学の課題

公共サービスが市場原理や市民の「自己責任」に委ねられ、さまざまな領域で「公共性」が危機に瀕しています。このような「公共性の危機」は人文・社会科学の諸分野が連携して取り組むべき課題です。そこで本シンポジウムでは、龍谷大学の多彩な研究者による基調講演および講演に対する応答を通して「公共性の危機」を学際的に捉え、さらに意見交換会で来場者と登壇者が自由に議論するなかで課題を克服するための方策を見出します。

第 1 部　シンポジウム（15:15〜18:25）

司会：田中　明彦（社会学部教授、国際社会文化研究所事業部主任）
　　田村　公江（社会学部教授、国際社会文化研究所運営委員）

開会のあいさつ：
　　入澤　　崇（龍谷大学学長）

基調講演

1）小峯　　敦（経済学部教授：福祉経済学、経済学史、経済思想）
2）村澤真保呂（社会学部教授：社会学史、社会思想）
3）清水　耕介（国際学部教授：国際政治学、政治思想）

ディスカッサント

1）只友　景士（政策学部教授：財政学、経済政策）
2）筒井のり子（社会学部教授：社会福祉学、地域福祉論）
3）竹内　綱史（経営学部准教授：宗教哲学、宗教学）

閉会のあいさつ：
　　栗田　修司（社会学部教授、国際社会文化研究所所長）

第 2 部　意見交換会（18:25〜19:05、対面会場のみ）

日時：2023年1月18日（水）15:15〜19:05

場所：龍谷大学深草学舎和顔館 2 階 202 教室

※ 第 1 部 シンポジウムのみハイブリット（対面・オンライン）開催

要参加申込（裏面参照）

「公共性の危機」と人文・社会科学の課題

開催趣旨

第二次大戦後の先進諸国で主流だった「福祉国家」と呼ばれる社会民主主義体制は、1980 年代以後の「小さな国家」をめざす世界的な新自由主義政策の広がりによって解体しつつあります。それまで行政を中心におこなわれてきた福祉・医療・教育・公共インフラ（水道など）の公的責任に基づく「公共サービス」は、その一部が民営化をつうじて市場原理・競争原理に委ねられ、あるいは NPO やボランティアなどの市民の「自己責任」に委ねられるようになりました。それによって行政の効率化が進められたとともに、それまで行政が独占していた公共サービスの領域が民間に開放されたことにより、利便性やサービスの向上などのメリットがあったことは事実ですが、他方で公共サービスが競争原理に委ねられたことによる質の低下、階層間や地域間の格差拡大、利用者負担の増加など、さまざまなデメリットがあったことも否定できません。このような「公」から「民」への流れが加速するなか、教育や福祉、医療、市民生活のさまざまな領域で「公共性」が危機に瀕していることが、21 世紀になって人文・社会科学にとっての大きな問題になっています。

今回のシンポジウムでは、「公共性の危機」が私たちの市民社会と人文・社会科学に提起している諸問題を精察するとともに、その克服の可能性を探ることを目的として、本学の複数分野の研究者のあいだで学際的な議論を深め、さらに意見交換会で、本学の教学・研究の新たな展開にもつながるよう、議論を広げていきたいと考えています。

参加申込方法

シンポジウムにオンラインでの参加を希望する方は事前申込みが必要です。対面での参加を希望する方は申込みなしでもご参加いただけますが、可能であれば事前申込みをお願いいたします。申込者全員にオンライン参加に必要な URL をお送りいたしますので、対面参加を希望していた方も急遽オンライン参加に変更できます。なお、第 2 部の意見交換会は対面のみでの開催となります。

2023 年 1 月 11 日までに右記の QR コードのフォーム（https://forms.gle/nmV2kupxXxewS9SVA）からお申込み下さい。オンライン参加に必要な URL は 1 月 17 日までに申込時に記載いただいたメールアドレスにお送りいたします。

問い合わせ先
龍谷大学国際社会文化研究所／担当：吉村
TEL：077-543-7746　E-mail：shabunken@ad.ryukoku.ac.jp